和昭26年 4月 4日（水曜日）第259號　磐城毎日新聞　種別第三種郵便物認可（一）（昭和二十五年十二月第621號 新聞紙特別取扱認可）

磐城毎日

衛兵與市 大和田與平 社長
福島縣平市15丁目12番地 發行所
株式會社 磐城毎日新聞社
編集兼印刷發行人 遠藤孝倫
電話(平)一二一〇番
定價1ケ月50円 1部2円
【夕刊・月曜休刊】

投稿歡迎

三千萬圓借入れ決議

無責任な報道に市民迷う

去る三月三十一日開催した平市の二十五年度最終議會に於て提出議案全部原案通り可決された事は昨報の通りでその議中に次の如き議案も可決された

△議案第四一號一、借入利率日歩三錢以內
一、借入先銀行又は個人
その他

右の決議に對し四月三日附地方某紙は平市がこの決議に基き二十六年度に於て競輪費として新らたに三千萬圓を借り入れる事となつたものゝ如く解される甚だまぎらしい報道をした結果市民中には不審を抱いて居る向もあるようであるが一時借入れの決議の効力は四月一日より翌年三月三十一日の一ケ年間と規定されているので二十五年度に於ける一時借入れの決議は去る三月三十一日を以つて効力を失う事となつた爲め決議の仕直しをしたに過ぎないもので新らたに借入れをする譯けではなく又競輪費としての現在の一時借入れ金は七十七銀行より千八百萬圓を借入れをしているに過ぎず只「三千萬圓以內」と決議した事は二十五年度に於ける決議をそのまゝ踏襲したに過ぎないもので某紙の無責任の報道に市民は惑はぬよう市當局では要望している

平競輪費

一、借入金額金三千萬圓以內
一、借入利率日歩三錢以內
一、借入先銀行又は個人
その他

平工高卒業生の美擧

五十萬圓で校長公舍建築

修身教育の必要が問題化しアブノーマルな事件が頻發し人道まさに地をはらふの觀を呈す今日此頃、これはまた平工業高等學校に喰いた佳話がある、先月來同校小野校長の住宅の家主田名網氏から立退きを迫られ困惑しているのを聞いた同校卒業生達は、同校の校長が行く先もなくて困つて居るのを見兼ね更に校長公舍がなくてはいかな名校長も招聘する事は出來ぬと、去る三日二十八日、三十一日の兩日にわたつて卒業生の有志が校長公舍設立準備會發起人會なるものを組織その實現に乘り出した、發起人會代表を第一回卒業生の鈴木達吉君とし片倉滿夫、大橋柾、堀川秀雄君等十五名が中心となり同校校庭の西側に候補地をきめ卒業生約一千七百名より二百圓平均の寄附を集め縣の補助其の他合計五十萬圓で二十五坪の住宅を建設する豫定である、四月八日各方部別の卒業生代表を集め趣旨を徹底せしめて出來るだけ早急に實現に努力する事を申し合せた、なお發起人代表等は蓮沼PTA會長とも懇談、その協力方を要請した、なお連絡先は同校教諭大橋柾氏にきめ六月下旬までには完成する豫定である

三和炭礦スト解決

炭勞東、部鑛連の斡旋奏功

二十一日からスト突入していた炭勞傘下の三和炭礦については屢報の通りであるが、磐炭勞大森副委員長、東部鑛業連盟青木勞働部長の斡旋により二日午前四時協定に正式調印、同八時からストを解いた、協定案は坑內夫三百六十三圓、坑外夫二百十六圓、家族手當四百圓で、スト突入以來十三日目で解決した、臨時夫の問題など險惡な雲行を見せた三和もこゝに全く解決した

江名の工場地帶燒く

損害約六千萬圓二名重傷

四月二日午後九時四十分頃江名町折戸字岸浦桑原製菓工場責任者藤井操(三九)さん原料資材倉庫附近より出火左の通りである
△鈴木英雄(製菓工場)△佐藤芳吉(仝)安藤二郎(仝)鈴木春雄(江名工場)鈴木光雄、永野ユキ(仝)柏建(仝)以上七世帶原因は調査中であるが失火は間違いなくまた桑原工場では同日午後七時半頃まで殘業をしていた、なお同火災における負傷者は同字吉田專二郎(四八)さんが一ケ月及佐藤芳吉(四五)さんが三週間の重傷

石炭のヤミ採掘

實地調査を實施

平石炭事務所では近頃めつきり增えて來た石炭のヤミの採掘を防止するため三日二〇五列車內に變死体となつているのを平鐵道公安官が發見、平市實川醫院長が診斷の結果心臟麻痺で死亡した事が判明した

岩手縣の船本さん

常磐線の列車內で急死

岩手縣氣仙郡大船渡村船本忠吉(三五)さんは二日午前二時二十三分平着常磐線下り二〇五列車內に變死体となつているのを平鐵道公安官が發見、平市實川醫院長が診斷の結果心臟麻痺で死亡した事が判明した

給料未耕工場其他に

申請により融資の途開く

平勞政事務所では金融面の行詰りのため給料が未拂となつている工場若しくは會社等え其の實情を申請によつて調査し縣からの保助により三日より十日までの間を融資申請受付期間ときめ如何なる工場會社でも賃金を支拂ふための融資は申請資格を有しその申請によつて十三日審議決定することとなつた

平市議候補屆の出

三日正午まで僅かに三名

地方選擧の告示は愈々三日から約十日間の日程で實地の調査を行ふ、對象となる地區は好間、赤井、勿來、双葉郡の川內村である

平驛の待合室で手提カバン盜る

內鄉町字內町二十三番地敎員坂本セツ子(三五)さんは二日午後五時三十分頃平驛待合室で見送り生徒と雜談中ベンチかな手提カバンを盜まれカバン內には現金一萬圓在中のものであつた

神谷の小林さん自轉車を盜まる

平市中神谷瀨戸四十七番地小林正人(三七)さんは一日午後六時十五分頃市內紺屋町五汁屋飮食店入口で中古自轉車一台八千圓相當を盜まれた

內鄉と湯本に赤痢患者發生

△湯本町傾城四十番地坂田博(三)さんは三十日發病し三十一日赤痢と決定
△內鄉町大字七反田五十番地寒川井博(二)さんは二十八日發病し三十日赤痢と決定し同日死亡
△內鄉町大字內町三二齋藤清美(三)さんは二十八日發病し三十日赤痢と決定同日隔離された

三日晩は北西の風曇りがちの天氣ですが時々小雨模樣の天氣です
四日は北の風曇りがちの天氣から次第に晴れて來ましよう
五日は北のち南東の風曇りがち海上は北東の風一時波立ちますが六した事はない明日はおだやかになりましよう

平市四丁目（平郵便本局裏）
木村眼科醫院
木村正道
電三一六番

三月節句
雛人形
金太郎オモチヤ店
平市三丁目

（十八才より廿四、五才迄給料は面談の上）
飮食とお酒の店
女給さん急募!!
平市本局前 電五二八

外科
外科一般 整形外科 性病科 皮膚科 肛門科 婦人科
松村亭
胃腸
內科 胃腸科 呼吸病科 神經病科 放射線科
小林喜久雄
松村醫院
平市南町 電話一〇七番

昭和25年7月6日
(二)　第三種郵便物認可　昭和26年(1951)　磐城毎日新聞　3月4日（水曜日）第259號

平市の名士を訪ねて

三拍子揃った
石山一治氏

現市議員中隨一の酒豪は誰かと問えばそれは餘人ならず吾が石山一治氏だそうで直接にきいた言葉ではないが、最もこれは石山氏に間違はあるまい、平然として盃をふせぬ豪傑石山氏は生粋の平産、三十四才の若さを以て市議に初登場して以來連續十年間の議席を持つ、明せきな頭腦着實な努力が實をむすび中堅層に絶對の支持を持つ石山氏は確かに大物たるの素質をそなえている、いや既に早くも氏の市政に占める比重は大きい、第五部常任委員會委員長の重責をにない氏の發言は大きく市政に反響する、秀れた頭腦厚い情、どつしりとすわつた肚、屈せぬ節操そして堅實な努力だ、今やこの人に寄せる市民の信頼は大きく氏は居宅材木町を根據として渦巻きの如く石山ファンが形成され動かぬ盤石の信頼を形成している、競輪の豫想屋ならねども市議三十の椅子をめぐつて豫想屋の選擧噂は絶えない、先づ危げない筆頭にあげられる人物が氏であるといふ事は巷の聲を待つまでもない、競輪の副委員長、平一中のPTA會長、防犯協會副會長もうこれ位に止めておこう敷えたてればきりがない、郡下の中學校の名門平一中のPTA會長これだけでも子弟の教育に寄せる氏の關心を示すに足る、令嬢惠子さんは花柳流の名取り十五才にして見事榮冠を獲得したといふから凄い、この父にしてこの子あり、秀れた才能を父から受けついだ事だらう、津代夫人もまた評判の賢夫人、政治に事業に家庭に美わしくも三拍子そろつた石山家、大物石山氏は更に順風に帆をあげて前進する事だらう、健斗を祈るのみ

町議選擧の前奏曲

…（小名濱支局）…

（第五區の卷）2

事は餘程考えねばならない然らざれば重鎭たる立場を無視する事となるのであらうと云ふ事である、果して之れが信なりとせば、齋藤君なる人は餘程考慮を拂ふ必要がある、最後に社會黨を標ばうして出馬せんとする石井孝平君である、青年層に於ける立役者である處に相違はないが、君の性格は事の大局を見るの明かに缺如して居る點が多い、殊に新しやを以て臨むと云ふ僻見があると言はれ、リコール、分村等の問題に對して輕擧妄動の動きを見せて得ると言はれ誠に以て大局を誤るのが君の過去の歴史であるとの噂が濃厚である様だこの点の頭の切り替えによつて進めば君の將來は驚く程の進歩を見るに至るであらうと期待をかけられて居る事も大きいこの意氣で今回は當落の岐路に立つたらうと云ふ所である舊玉川地區の選擧はこの狀勢で遂に最後の線を突破する事となるのであらう

舊玉川の中央部住吉からは竹原太津彌君が出馬ときまつた様だが前回は僅少の處で敗北した、今回は餘程褌を締めて掛らないと住吉と云ふ處は獅子身中の云々が相當宿つて居るから其点の掛け引きが大事であらう、大字金成からは橋本左多司氏の出馬は必然となつた様だ、君は合併後小名濱消防團の副團長などの經歴もあるので、部落中の一人者としての地位にあり、齋藤晃君の幕僚としても重きをなして居るが、元來金成は地の利を失つて居る、林城には、其咽喉を犯されて居る上に有權者としての數も四五十票である處から應援軍も却々容易でないと云ふ欠陷もあるから齋藤君が餘程シツカリ掛らないと或は惜敗と云ふ結果を見るのでないかと見られて居る、茲に齋藤君の立場を噂して居る人々の話を綜合すると、齋藤君は前代議士でもあり、舊玉川部落の重鎭である以上、今回の小選擧區制で確實に四名が議員たる事であるから徒らに競爭せしめて莫大の運動費をまき散らす

常磐炭礦
春季大學講座開く

二日から湯本自治會館で

常磐炭礦では二日から六日間、湯本町自治會館において春季常磐大學を開講する事となつた、講師はわが國の文化を代表する名士のほか地元常磐の主腦部など三十氏である、講義日程等は次の通りである

△四月二日（毎日午前九時）開校の辭、原與三郎（常磐事務部長）日本經濟の動向と組合運動、津曲藏之丞（東北大教授）常磐技術の諸問題越智英男（常磐副所長）炭礦機械化の現狀、齋藤俊夫（常磐技術次長）宗教と生活、グローロ神父（平カドリック教會）

△四月三日 最近の經營管理、飯島隆俊（常磐事務次長）英國の勞働事情柴田圭介（炭勞副委員長）余計について卷苑（新常磐會計課長）これからの勞組（討論會）志村アナウンサー（NHK）以下略

△四月四日 炭礦排水の諸問題小林志三郎（常磐技術次長）野球界展望飛田穗洲（野球評論家）以下略

△四月五日 新賃金について朝妻仲治（常磐調査係長）日本をめぐる國際情勢、荒垣秀雄（朝日新聞論說委員）中勞委の諸問題、吾妻光俊、（一橋大教授）

△四月六日 炭礦保安の話北山準之進（常磐保安課長）考古學について安藤正輝（早大教授）社會民主主義の話鍋山貞親（國際經濟研究所長）

△四月七日 演劇と映畫夏川靜江（NHK囑託）文學と生活菊田一夫（劇作家）堀江史朗（NHK）教育の諸問題池田潔（慶大教授）これからの炭礦保安問題上村福藏（資源廳管理課長）

小名濱第二中
校舍工事進渉す

完成まで第一講堂を充當

小名濱町立第二中建築は作山組に依つて着工中であるが二十六年度學年初めに收容する七百名の學生は新校舍の完成を鶴首して、待ち切つて居たが遂に三月一杯では一棟すらも出來ず、生徒收容操作の上に、町當局も學校當局も遂に匙を投げねばならない結果をも招來し程々困惑を來たしている、これに對して、建築委員會では何とかして、一棟だけを四月中旬までに完成せしめ生徒收容の運びに至る様晝夜兼行で工事を進行せしめる事を作山組に命じ、極力督勵の結果、四月十八日迄には完成に近い迄に進渉を見せ町當局の苦境を脫却せしむる成案を得るに至つたので學校側としては生徒收容の操作の上に一時的方法として第一講堂を使用し校舍完成までの約二十日間の教室に充當する事とし一先づ生徒收容の上に混亂を避くる方法を講じた事は時宜を得た處置として父兄から喜ばれて居る

内郷町の下方部
町政座談會開く

内郷町下方部、御厩、小島、御台境では四月一日午後六時半より内郷町御厩小學校において菅本三義町會議長等數名を招き町政をきくの座談會を催した

將棋の四月例會
白土氏優勝盤を獲得

市内新川町將棋互樂會會場で一日行われた平將棋互樂會優勝盤爭奪戰については既報の通りであるが各級の成績は左の通りであるが、

△優勝白土東一（B組、十二級）

▲C組
1松川甲子未（六級）2横田宗五郎（十三級）3渡邊一男（七級）4伊東治（八級）

▲B組
1白土東一（十二級）2佐川公一（十三級）3小宮山牛重（十五級）4海老原民藏（十二級）

▲A組
1渡邊美代志（二級）2原川健一（四級）3三浦宗三郎（六級）1安孫子藤一、（五級）

なおAB各組の優勝者間で行われた優勝盤爭奪戰はB級の白土東一氏が勝ち見事榮冠を獲得した

開店記念
一週年謝恩大賣出し
迄日九日五月四より設特
謝恩賣場
壽　二階ホール

奉仕品ノ一例

純毛フラノ服地	6.500圓ノ品	4.300圓
春ノ新柄銘仙		550圓
メリヤス	450圓ノ品	380圓
粉ミルク(225g)	120圓ノ品	100圓
男ズボン	1.800圓ノ品	1.300圓
婦人雨靴	750圓ノ品	630圓
背廣三組	4.500圓ノ品	3.500圓
ランドセル	630圓ノ品	500圓

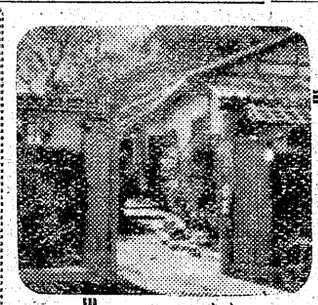
その他奉仕品澤山ございます

壽百貨店　平驛前

宣伝にサービスに
広告マツチ
注文ハさかいや
平市六丁目 TEL485

慢自＝場本
牛豚肉
配達迅速
第一線
第二線屋
第一電話五三九番
第二電話七九四番

大衆食堂
あつい鍋燒うどん
特製支那そば
さかえ
出前迅速
平驛前東角
電話九八九番



平の桃源境
翠の松に圍まれた
靜かな部屋……
松ケ岡公園踏切先
溫泉旅館
古里
平市古鍛治町
電話五七七番